



秋のはじめ

塚本 文代
(福井)

このごろの私
この一週間で随分と涼しく
なったからか、よく眠れる。
そんな私が寝ている間も、畑
の野菜たちは懸命に育って
くれる。有難いことである。

確かめて下る石段の長ければ次第にしだいに人に遅れぬ

見上げたるあしたの空の明るさは露に開きし桔梗きぢがらの花

暮れてなほ暑き大地に沁みとほる十三夜月の秋の光は

夏の陽に傷みし庭のふぢばかま渡りの蝶にと蕾つぼみつけたり

真夏よりも朝のひかりがよく透り巡らす葦簣あしざりの外はもう秋

長月の刈田をわたる朝のかぜ憤怒の心をさらひてくれぬ

信号を待つ間の木陰すずしくて南京黄櫨なんきんわうしに秋は来てをり

おほいぬのふぐりが咲いてゐた路におなじ色してつゆ草の咲く

鍔広の白い帽子はもう脱がう山かげの細き道に風あり

葉隠れに育ちし柿の六つ七つ色づきそむるを鴉からすがねらふ

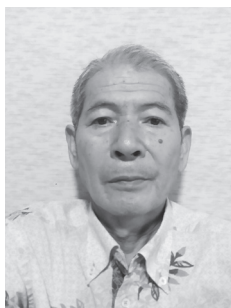
窓越しの満月に手を合はせつつ残りの夜を母は生き継ぐ

襟足にさやる朝かぜ感じつつ雨あとの畑に大根を蒔く

大根の双葉に水をやると来て虹たてば幾度も虹を立たしむ

雨あとを畑におろせる白菜の苗は夜露が育ててくれる

ひがんなな蕾つぼみばかりの花ぐきをすんと伸ばして青空めざす



黄信号

牧島 幸造

(鹿児島)

このごろの私
まわりの先輩たちから七十
を越えたら、体調が変わるよ
と聞かされてきた。他人事だ
と思っていたら、我が身にも
黄信号が点滅してきた。まだ
まだ倒れる訳にはいかぬ。気
力で乗り越えていきたい。

穏やかに暮れゆく空に思ひけりわが残生もかくあれかしと
突然に前立腺が暴れ出し排尿障害激痛はしる

エアコンの部屋で終日天井を眺めて過ごす日々となりたり

救急の搬送中に思ふこと家族や職場、短歌会など

ポジティブとネガティブ二面さまざまに大混乱のわが脳のなか

片足の不自由以外は健康と自信ありしが黄信号なり

これ以上望みはせぬがせめてもと現状維持を願ひきしものを

出来るなら片付けてからと思へども仕事の引き継ぎ書面にまとむ

「島内で手術できぬ」と主治医言ふ離島なるゆゑはがゆき思ひ

とりあへず検査入院手続きし二泊三日の鹿児島通ひ

「寝すぎだよ」と妻に急かされ畑に出る気分晴れるも疲れが出で来

降らずとも草木は伸びてはびこれり臥しゐる吾を起こすごとくに

まだ先に坂はあるかも知れないがまづはこの坂越えねばならぬ

辛きときは楽しかりしを思ひ出せ 今までそれで乗り越えてきぬ

いつの日か青信号が灯るまで健康第一精進しよう